

自然農法センター イベントトリポート

当センターが30年以上にわたって積み重ねてきた有機農業・自然農法技術を海外・国内を問わず広く普及していくため、本年1月・2月に当センター農業試験場（長野県松本市）を会場に、2つの行事を開催しました。その様子をリポートします。

第1回短期講座「堆肥づくりの基本と実践」

当センターはこれまで長年にわたって中国をはじめとするアジアの国々から研究者を受け入れるなど、海外との研究交流を進めてきました。そうした中、より一層の有機農業・自然農法の普及を願って、2020年1月に4泊5日の日程で「第1回短期講座『堆肥づくりの基本と実践』」と題した外国人向けの講座を開催しました。

に還元する一つの方法として、有機物の堆肥化や有機肥料作製の考え方と技術をお伝えします。本プログラムが皆様の地域で役立つよう、スタッフ一同努めます」と挨拶し、講座はスタートしました。

今回の講座は、4人の講師による7講義・6実習の内容になっており、当センターの中国人研究スタッフが随時通訳しながら進められました。

今回は中国より3名の申し込みがあり、内2名（十オブザーバー1名）が参加しました。冒頭に三木研究部長より「有機農業では身近な有機資源を有効利用できるとともに、農地への炭素貯留によって温暖化を緩和できることがわかっていますが、有機資源を上手に土壌に還元しないと、栽培過程で、雑草害や病虫害の問題が発生してしまいます。そこで、上手

講義は、自然農法の「育土」を中心とした基本的な考え方や栽培体系、堆肥・緑肥・有用微生物（EM）を活用したボカシをはじめとする有機資材の基礎知識と活用方法などを説明しました。堆肥についてはより掘り下げて、概念や特徴、土の中での役割、材料、発酵条件、熟成判断、腐植、微生物との関連性、堆肥化施設、日本での活用事例など多岐にわたって、科学的な解説や当センターで行ってきた研究成果・実践例を交えて解説しました。

実習では、講義の中で紹介した6つの





堆肥・有機資材について、材料・比率・混ぜ合わせ方・発酵促進のための積み方・保温のコツなどを実践的に学びました。

夜は夕食を一緒にとりながら、日本と中国における農業の共通点や違いについて情報交流するとともに、茶道をたしなむ当センタースタッフによる抹茶のおもてなしや、米の食味比較実験なども体験してもらいました。

最終日には講座修了証をお渡しし、その後は佐久市堆肥製産センターの視察などの見学を経て、帰国の途につかれました。

身の大学や農場で実現するためのノウハウを熱心に質問していました。

参加者からは「大学では聞けない講座内容でした。私の有機水稻栽培に、今回講座で学んだ知識がきつと役立つと思います。機会があれば私の職場である大連理工大学に招待して技術指導をお願いしたいです」「実習から堆肥づくりの細かい裏技をたくさん学びました」といった感想をいただきました。

帰国後には農家と連携して鶏糞を利用した堆肥を作り始めたり、土ボカシや生ごみ堆肥を現場で作ったりしているそうです。

当センターでは、海外に向けた有機農業・自然農法技術の普及を目指し、今後も外国人向けの講座を継続していく予定です。



参加者に終了証を授与

講義内容

- ① 自然農法の基本・栽培体系
 - ② 緑肥の活用
 - ③ 堆肥作りの基本と原理
 - ④ 堆肥発酵技術
 - ⑤ 日本における堆肥活用の有用事例（三富新田の事例紹介）
 - ⑥ 堆肥の使い方（日本の活用事例など）
 - ⑦ ボカシ肥料の基本（有機資材の説明、肥効計算など）
- 自然農法の映画「生きている土」

作成実習内容

- | | |
|---------|----------|
| ① 籾殻堆肥 | ④ 土ボカシ |
| ② 草質堆肥 | ⑥ ボカシ肥料 |
| ③ 落ち葉堆肥 | ⑤ 籾殻クンタン |



茶道や米の食味比較実験などの体験を通して交流



稲作スキルアップ講座・情報交流会

自然農法の稲作技術を長年研究してきた三木研究員（現・研究部長）が毎年関係農家のフォローアップなどを目的に年1回「稲作勉強会」として開催してきたものを、今年は2回開催に拡大し、広く有機農業・自然農法の稲作農家、またはそれらを志す人に向けて企画したものです。

今回新たに「稲作スキルアップ講座・情報交流会」と題して、当センターが地道に積み上げてきた自然農法による稲作技術を生産者の皆様に情報還元し、また農家同士、農家と研究者の交流からお互いが新たな発見や技術向上につながる場になることを期待して開催しました。

2020年2月7日（金）と2月15日（土）に行われた講座にはそれぞれ36名、合計72名にご参加いただき、各回とも大変盛り上がりました。

今回は、水稻の雑草対策をテーマに2つの講演と質疑応答・情報交流が行われました。まず、自然農法水稻栽培の研

究に30年間携わってきた当センター理事長の岩石真嗣より「雑草のない『無除草の除草技術』」をテーマに、「雑草とは作物と競合し、減収・品質低下・作業性低下など有害に働く草を意味する人為的分類である」という視点から、自然農法によって雑草の有害な働きを生まない、つまり雑草がただの草になる水田環境を作ることが可能になるということを示しました。さらに、このような考え方を水稻栽培の中で体现し、さらに押し広げていくことができれば、健康で豊かで平和な社会が実現可能になると訴えました。

続いて研究部長の三木孝昭より、具体的な雑草対策の考え方と方法について、耕種管理の段階ごとに「育土（土づくり）」「代かき」「育苗と田植え」「有機物施用」「除草作業」の5つに分け、当センターのこれまでの研究成果や農家の実例、比較写真を交えながらわかりやすく解説しました。参加者からは「秋起こ



しの重要性が大変よく分かりました」「雑草防除の考え方を考えることができ、とても為になりました」「今日は大きな疑問が解決しました。田植え前の代かきの時期を早めて雑草対策を実践したい」などの感想が聞かれました。

続く講師と参加者との質疑応答・情報交流会では、「適正な日減水深にするための土壌構造について具体的な方法をもっと知りたい」「強い苗を育てる方法（用土・温度管理・水管理）を教えてください」「秋起こしのタイミングと深さ、遅れた場合の対処方法を知りたい」といった、より具体的・実践的な解決策を求める声も多く、熱心な議論が続きました。質問にベテラン農家が答える一幕もあり、活発な交流が行われました。

特に15日には、閉会後もほとんどの方が残って「育苗に



閉会後も各分野で交流が続いた

ついて」「秋～冬の土づくり・耕起方法について」「その他」の分野に分かれて質疑応答や情報交流が行われ、約2時間の延長戦は参加者の熱気に包まれていました。

当センターでは、寒冷地向けの稲作技術については農家の皆様の役に立てる技術の整理ができてきていると考えており、今後もこのような講座を通じて情報発信していきたいと考えています。

（蟹江 秀則）

自然農法ワークショップ（体験学習会）のご案内

2020年5月～10月に当センター農業試験場にて「自然農法ワークショップ（体験学習会）」（全9回）を開催いたします。本ワークショップでは、栽培しながら育土（土づくり）を進める、自然農法の考え方と実践方法をお伝えします。野菜作と水稲作について座学とフィールドワークで学べます。時期毎にポイントを絞ってお伝えしますので、関心のある回にぜひご参加ください。

詳細およびお申し込みは、当センターホームページ「イベント情報」をご覧ください。

■参加費：各回 2,000 円 ■定員：各回 10 名 ■申し込み締切：各回開催日の1週間前

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を中止または延期する場合がございます。



回	日時（曜日）	内容		
		野菜作（座学）	水稲作（座学）	体験・見学
1	5月9日（土） 13:00～17:00	野菜作の緑肥の活用と育苗のポイント	水稲育苗のポイント	野菜苗（果菜鉢上げ期）・水稲苗（入水期）を見てみよう、圃場見学
2	5月25日（月） 13:00～17:00	野菜作の有機物の活用（春作）と定植	水田の代かきのポイント	果菜苗定植と雑草管理の体験、深水浅代かき（植代）見学、圃場見学
3	6月18日（木） 13:00～17:00	緑肥を活用したカボチャ栽培の紹介	水田雑草の生理生態と除草のポイント	果菜類の整枝と緑肥の管理・水田のチェーン除草体験、圃場見学
4	6月25日（木） 13:00～17:00	イネ科→アブラナ科栽培体系（スイートコーン→ハクサイ）紹介	水田の水管理のポイント	果菜類の整枝と緑肥の管理体験、圃場見学
5	7月27日（月） 13:00～17:00	イネ科→アブラナ科栽培体系（キャベツ）の紹介	水稲の生育診断（見方）	キャベツ定植、水稲の生育調査体験、圃場見学
7	8月21日（金） 13:00～17:00	野菜作の有機物の活用（秋作）	お米の品質の成り立ち	野菜畑の秋作準備の体験、収穫と試食、圃場見学
8	9月19日（土） 13:00～17:00	野菜のタネ採りのポイント	水稲の育土（土づくり）タネ採りのポイント	野菜のタネ採り・水稲生育調査の体験、圃場見学
9	10月28日（水） 13:00～17:00	野菜畑の育土（土づくり）のポイント	—	キャベツ・ハクサイなどの収穫体験、カボチャの試食、圃場見学

出前講座のご案内

当センターでは「自然農法の歴史や理念・原理」「有機農業や自然農法における水稲・野菜栽培」「自家採種」「家庭菜園」「有機 JAS 認証」など、各分野の出前講座を行っています。長年の研究・開発の成果や現場生産者との技術・情報交流を通じて得た多くの事例をもとに、知識と経験豊かな講師陣がお話しします。講師一覧およびプロフィール、担当分野などは当センターホームページ「出前講座」をご覧ください。

